

多様な人材を活用した柵の設置・管理による徹底した獣害対策で営農意欲UP (三重県菰野町)

- 住民が得意な分野でリーダーシップを発揮してメンテナンスのしやすい多獣種防護柵を設置
- 農業者が狩猟免許を取得
- 設置した防護柵により被害額が9割減少し、捕獲数が倍増する相乗効果
- 農業者だけでなく、自治会(地域住民)も参加して地域一体となった獣害対策の取組

取組内容

- 過疎化及び高齢化が進む集落において、「管理が継続できる」獣害防護柵について検討し、強固で維持管理を行いやすく、他にはない防護柵を設置



地域住民の勉強会



地域に適合した複合柵、門扉、水路の暖簾式ゲート

- 農業者が狩猟免許を取得し捕獲活動を実施する体制をつくり、柵周辺での捕獲を実施
- 柵の管理は、農業者が中心となって行い、自治会は、草刈り、道路補修、パトロール等を担当し、日々改善を図りながら獣害対策を継続
- 獣害対策が進み農業被害も減少したことから、基幹産業である農業を活かした集落の将来あり方についての検討会を実施

成果

- 柵の設置により、イノシシ、シカ、サルの被害が9割減少し、イノシシ、シカの捕獲数が倍増する相乗効果
- 地域ぐるみの取組により、獣害対策が地域振興を考えるきっかけに
- 防護柵内での菰野町特産のマコモタケ栽培に、オーナー制度を導入して県外からも収穫体験者が訪れるなど、地域の魅力を発信することで地域振興に

近年の被害額 (千円)

獣種	平成29年度	平成30年度	令和元年度
イノシシ	1,715	50	50
ニホンジカ	1,205	35	35
ニホンザル	902	300	300
合計被害額	3,822	385	385

➡ 9割減少!

多様な人材を活用した柵の設置・管理による徹底した獣害対策で営農意欲UP(三重県菰野町)

きっかけ・背景

- 高齢化、過疎化農業の担い手不足、鳥獣害の増加から農地が荒廃

課題

- 農地の獣害対策には防護柵が有効であるが、管理手法が課題
- 防護柵の選択や設置の工夫が必要

Step1 情報収集 および計画策定 (H27)

- 各地の獣害対策地を視察して情報収集した結果、「日常の管理を軽減するため、初期投資(金銭、労働)が多くなっても頑丈でリスク分散できる柵を設置することが重要

Step2 実行あるのみ (H28~30)

- 5mmのワイヤーメッシュ柵と電源設置箇所の分散など住民が得意分野を發揮した獣害柵を設置
- 農業者が狩猟免許を取得し、捕獲活動を実施

Step3 地域振興に向けて (H30~)

- 設置した防護柵を日々改善して対策を高度化
- 地域特産品であるマコモタケを栽培
- マコモタケオーナー制度について町内企業と連携

目標

獣害対策を継続し、基幹産業(農業)を活用した地域づくりを展開



切畑区における捕獲頭数の推移

年度	平成29年	平成30年 (柵が完成)	令和元年
イノシシ	4	15	10
シカ	8	14	17

マコモオーナー制度(まこもクラブHPより)

取組の特色

- 集落住人28名のうち農業者7名、農業者の平均年齢70歳と過疎化・高齢化が進みつつある集落でも、対策により被害をほぼゼロ化
- 補修をし続けて安い柵を使うか、初期投資をして堅牢な柵で補修頻度を下げるかが重要な判断に
- 電気関係、金属加工などを得意とする人の意見を取り入れ、地域に適合した柵を設置

取組による成果・効果

- 柵の設置により、イノシシ、シカ、サルの被害が9割減少して、イノシシ、シカの捕獲数が倍増
- 地域ぐるみの取組により、獣害対策が地域振興を考えるきっかけに
- 防護柵内での菰野町特産のマコモタケ栽培に、オーナー制度を導入して県外からも収穫体験者が訪れるなど、地域の魅力を発信することで地域振興に